
転落ホームレス

京本 20

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

転落ホームレス

【Nコード】

N9769J

【作者名】

京本20

【あらすじ】

ホームレスに転落する人の話

ホームレスとなって、早3ヶ月・・・

どうして、こんなことになってしまったのだろう。

||||||||||||||||||||||||||||||||||||

全ては、サブプライムショック！！世界の金融恐慌のせいだ！！！！

俺は、この5年の間に、海外の不動産投資で成り上がった。

ドバイ、インド、アメリカ。各国の物件を買いあさり見事に成功・

資産は10億まで上り詰めた・・・

それが不味かった・・・

資産は10億あったが、同時に借金が7億あったのだ・・・

物件を担保にお金を借りて物件を買う・・・その物件を担保にして更に物件を買う

そうやって積み上げた10億の資産だった。

実質的な、財産は3億程度しかない。

俺は、不動産価値が下がるなんて思いもよらなかったから、銀

行から金を借りまくっていた。

負債2億円!!!

サブプライムショックによるバブル崩壊で、物件の総資産価値が、半値まで値下がりした。

赤字2億円!!!

私の全ての財産は差し押さえられた。。

それでも金を返すことが出来ない俺は、住むところ追われた。

身包みを剥がされた・・・

一気に無一文になってしまった。

こんな恥ずかしいところ、友達に見られたくない。。

絶頂期に、はぶりよく仲間におごって傲慢してカッコつけていた自分・・・

こんな惨めな自分は、人に見せられない・・・

俺は、あてもなく町をさ迷い、ホームレスとなった・・・

働く意欲は起きなかった。。。自分が情けなくて、人前に顔を晒す

ことなど、できなかった。

俺はホームレスとして生きることになった。

ホームレス生活は、つらいものだった。

食べ物、残飯・・・この残飯にしてもホームレス同士の縄張り争いがあって、簡単にありつけるものではなかった。

寝る場所は、公園のベンチ・・・だが、この公園のベンチも縄張り争いで、簡単に取得できるものではなかった。

場所を他に移せば良いことである。

だが、あまり遠くでは困る。

日雇いの仕事を得る場所は、ここしかないからだ・・・

この日雇いにしても競争率が激しく、4日に1回の重労働をして日5000円というレベルである。

社会の底辺は、こんなものだ。

だが、俺には、この底辺の居心地が良かった。

人目を避けられれば、安心であり俺にとっては楽だったのだ。

・
・

・

冬が来た・・・

キツイ・・・

仲間内のホームレスと一緒にになって、焚き火で暖を取るが、それでもキツイ。。

寒くて寝ることなど不可能だ。

体を動かしてないと、寒くてしんでしまう。

と、その時、俺の歯が一本取れた・・・

栄養不良で歯が抜けたのだろう。

まあ、いいさ、どうせ歯を使うほど物が食べられる訳ではないのだから・・・

?????

よく見ると、その歯は、キラリと光っていた！

そうだった、バルブの絶頂期に虫歯の治療の際に差し歯を金歯にしていたんだった。

[illegible]

金なんて、クソくらえ――！！！！！！

おれは、愚痴を言いながらも、その1000円を受け取った。

断るのが恥ずかしかったのかもしれない。
直ぐにでも、この質屋から逃げたい気持ちでいっ
ぱいだったのもあ
る。

だが、この100円は使えなかった。

自分の汚点の象徴でもある、100円玉・・・

使うのは、完全に自分が負けてしまうような気がした。

夜中の午前3時・・・

俺は、仲間の元へ戻る為に急いだ。

????????

????????

耳を澄ますと、泣き声のような音が聞こえる。

その音は、公園の土管から聞こえる・・・

女!?

子供!?!??

どうして、こんな所に・・・

女は、高校生くらいだろうか、家出をしてきたのだろうか。

酷く泣いている。
嫌なことがあったのか？
気になる・・・

俺は少女と目が合った！！

少女は警戒している

そりゃそうだ。。見知らぬホームレスが、こんな夜中に少女と2人
きりの状態なのだ。。
怖がって当然である。

勘違いされて、悲鳴などを上げられては困る。俺は、そそくさと、
逃げ出した。。

だけど、後味が悪い。

俺は、何も悪い事をしてないのに、どうして逃げなきゃならない・
・

寝られない・・・
昼の暖かい時間に寝ようと思っていたのに、少女のことが気になっ
て寝られやしない。。

俺は、何気に、少女の居た土管へと向かった。

居るとは思えないが、もし居るなら、事情を聞いて見ようと思った。
昼間なら警戒心も和らぐだろうし・・・

俺は、とにかく警戒されないように工夫をした。

仲間内からスーツを一つ借りていたから、見た目では大丈夫だと思う。

髭も髪も、最近、手入れをしたばかりだから大丈夫だと思う。

だが、勇気が居る。。よもや、痴漢と間違われる可能性がある。
その為にも、逃走ルートは確保し逃げる手順をシミュレーションしておいた。

午後1..00

少女は、土管の中に居た・・・

寝ている・・・

どうしよう？起こすか？

いや、だめだ。。。いきなり起こせば余計に怖がられる！

それに、昨日は寒いから寝てないはずだ。。少しくらい待ってやるか。。

午後2…00

ようやく、少女がお目覚めになったようだ。

土管から出てくるところ見計らって、少しずつ近寄り、話しかけた。

少女に話しかけるなり、少女は泣き出してしてしまった。

やばい、逃げよう!!

ふと、横に目をやると、巡回中のパトカーが・・・

俺は、仕方なく、少女の口を塞いで、土管に押し込めた。

まずいぞ、この状況を少女にどう説明したらいいのか判らない。

逃亡中の犯人とも思われたか？だとしたら、どうしたらいい？

その時、

「ぐ~~~~~~~~ぎゅるぎゅる」

?????

少女の腹の鳴る音だった・・・

俺は、噴出してしまったw

この緊迫した状況下で腹が鳴るとは、大うけだ！

こんなに大笑いしたのは、何年ぶりだろうか。これまでの人生で一度もこんなに笑ったことはない。

俺が、大きく笑ったせいなのか、なんのな良くわからないが、

少女は泣き止んでいた。

俺は、事情を聞くチャンスが訪れていたのだが、それどころではなかった。

腹が痛すぎる・・・

俺は、ここに居たら笑い死にしそうで、逃げ出し近くのコンビニへと入った。

俺は、食べたいものを見て気分を紛らわしていた。

肉まん税込み100円

ふと、目に止まった・・・

俺は、100円玉・・・

人生の汚点の100円玉を握りしめていた。

これで、肉まんを買って少女に上げよう！

どうして、その時、そんなことを考えたのか、未だに良くわからない。

もしかすると、良い事をすれば、俺の人生の汚点の何かが変わるような気がしたのかもしれない・・・

少女は、肉まんに食らいついた。

とともに、大泣きしていた・・・

うれし泣き？悲しい泣き？

いずれにせよ、肉まん一つで、そこまで感動されたんじゃ、こっちが嬉しくなる。

少女は、肉まんを食べ終えた後に、落ち着きを取り戻し、ポツポツと、自分のことを話し始めた。

――――――――――

（少女目線）

私は逃げるように家出をした。

だけど、どこにも行くあてがなかった。

頼れる人はおろか・・・友達もない。。

でも、とにかく家から離れたい。逃げたい・・・

気が付くと、私は公園の土管の中に逃げ込んでいた。

どうしてこんなことになっちゃったんだろう。

お母さん・・・助けて・・・

無理だよ。お母さんは、死んでる

助けてもらえるはずがない。

好きだったお母さん。

私は、お母さんのように、立派なお母さんに成りたかったんだよ。

だけど、私には無理だ。

何もとりえが無い。才能もない。

子供を生んで育てる資格なんて、あるはずがない。

家に帰らないと・・・

けど、帰ったら子供を下ろされてしまう。

嫌だ・・・子供を失うのは嫌だ。

かといって、このままここに居ても意味が無い。

子供は、どんどん大きくなる。

生みたいの？私？

わからない。怖い・・・

産むのも下ろすのも両方怖い・・・

私は決断できない・・・

・
・
・

少女の悩みは、妊娠だった。

少女の悩みを救える者は、誰も居なかった。

身内は義理の父が居るそうだが、仲が悪く父の暴力に耐えかねて、家を飛び出したのだそうだ。

お腹の子供の父は、責任を取りきれずに、少女を捨てた。

14歳で妊娠したことで、友人からは白い目で見られ、居場所を失った。

少女が決断を拒む理由は、何なのか？

母性本能？

だが、そんな曖昧な理由では納得できない。

自分を捨ててするような男の子供が欲しいと思うだろうか。

自分なら産むのは考えられない。

苦労するのは目に見えてる。。子供を下ろしたほうが身のためだ。

だが、それは少女も十分理解してた。

理解していて、なお決断できないでいるのだ。

俺は、少女の話を聞いて、いたたまれなくなった。

さっきまで、死ぬほど笑っていたのに、今ではそれが、遙か昔の思い出のようだ・・・

俺は、どうしたらいい？何をすべきなのか？

俺には、何もできなかった。

ただ、時間が過ぎていく中で、少女に少しの食料を分け与えることぐらいしかできなかった。

・
・
・

私は、それだけで十分だった。

誰にも手を差し伸べてもらえない自分が、唯一、認めてもらえる場所が出来たのだ。

以前の私は、社会の底辺であるホームレスのことを軽蔑して馬鹿にしていた。

何もしないで、グータラして、社会のゴミくずのように思っていた。だけど、私は。。そのホームレスに救われて、生かされた。

私は・・・

子供をこの世界になら、産み落として良いと思った。

私の居場所はどこにある・・・

私は、子供と一緒に生きたい！

決断したからには、行動を移すんだ！！

産むために・・・お金を稼ぐために・・・私は動き出す・・・

・
。

（後書き）

後書き

まあ、仕事の面接先で福祉の事を知らされるんだけど、転落ホームレスのように、大事な情報を知らないと、苦勞するわな・・・

ちなみに、この物語少女をモデルとした人物が居ます。

以前、テレビのニュース報道で15歳の妊娠ホームレスが紹介されました。

その際、少女の詳しい境遇は語られなかったけれど、もしかしたら、こんな感じかと思いい書いてみました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9769j/>

転落ホームレス

2011年10月6日01時49分発行